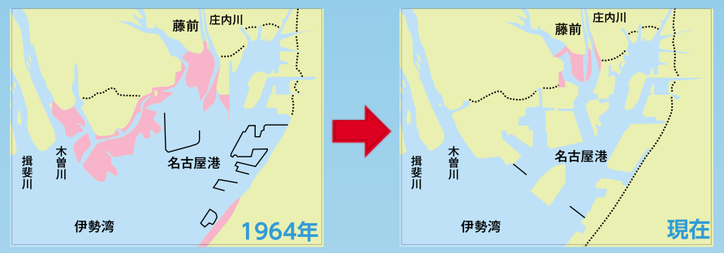
藤前干潟の危機とごみ非常事態宣言

その昔、伊勢湾の奥には広大な干潟が広がり、漁業も盛んに行われていました。しかし、生活や工業に使う土地にするために徐々に埋立てが進み、最後にかろうじて残されたのが藤前干潟です。

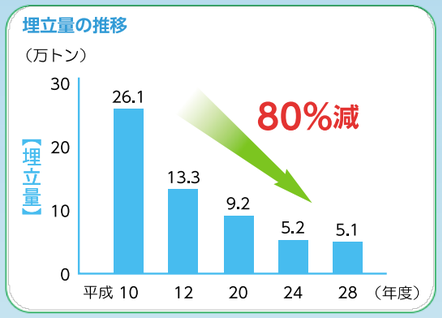


点線：埋立て前の海岸線　ピンク：干潟

1981年、藤前干潟をごみの埋立処分場にする計画が発表されました。

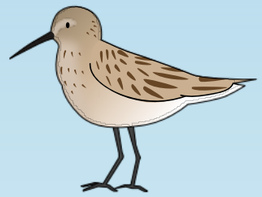
年々増え続けるごみに対応するために計画を進めていきましたが、藤前干潟は渡り鳥をはじめ多くの生きものにとって大切な場所でした。そのため「命を思いやる想像力」をもってごみ問題に取り組み、藤前干潟を守りたいとの市民の声が高まりました。

「ごみの処理が大切か、生きものが大切か」悩みぬいた結果、「ごみの処理も生きものもどちらも大切」として、1999年1月、埋立計画を中止し、2月にごみを大幅に減らすことを呼びかける「ごみ非常事態宣言」を出しました。



そして、名古屋市中の人々が力を合わせて分別・リサイクルに取り組んだ結果、埋立量は大きく減りました。

この出来事によって、藤前干潟は名古屋市の環境行政の転換点を象徴する場所となり、名古屋の環境の「原点」と呼ばれています。



環境について様々なことを学べる場所「エコパルなごや」

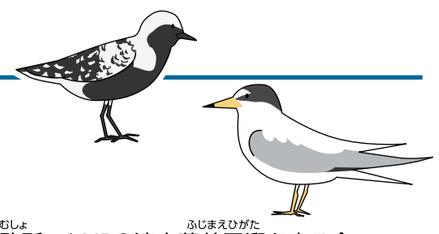
■開館時間　9:30～17:00
■休 館 日　毎週月曜日（祝日の場合はその翌日）
　年末年始（12月29日～1月3日）
■入 館 料　無料

名古屋市環境学習センター（エコパルなごや）　電話番号:052-223-1066

名古屋市中区栄一丁目23番13号　伏見ライフプラザ13階
■交通…地下鉄東山線・鶴舞線伏見駅「6番出口」徒歩5分

学ぼう藤前干潟

発　行　名古屋市環境局環境企画課
　〒460-0008　名古屋市中区栄一丁目23番13号
　TEL:052-223-1067　FAX:052-223-4199
協　力　名古屋市野鳥観察館 ／ 環境省名古屋自然保護官事務所 ／ NPO法人藤前干潟を守る会



このパンフレットは古紙パルプを含む再生紙を利用しています。

学ぼう藤前干潟

藤前干潟を学ぼう　藤前干潟から学ぼう

日本の中でも多くの渡り鳥が来る場所…。　たくさんの生きものが住む場所…。

大きなビルのたくさんある名古屋の中にも

このような自然が残っている場所があります。その名は藤前干潟。

そんな藤前干潟からは環境についてたくさんのことが学べます。

さあ、みなさんも一緒に学びましょう。

藤前干潟ってなあに?

藤前干潟とは名古屋市の南西部に広がる大きな干潟です。

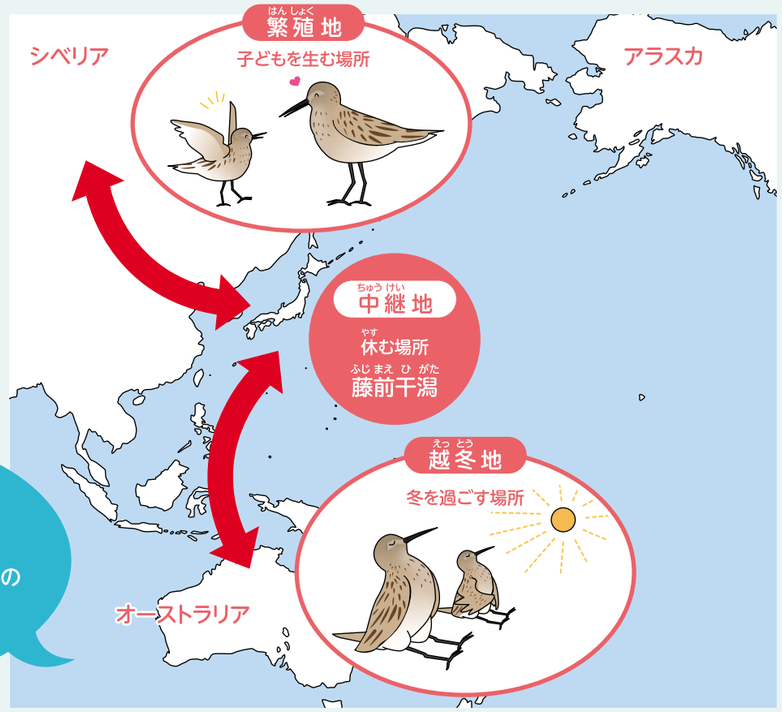
干潟とは、潮がひいて海面が低くなるとあらわれる砂や泥などでできた場所です。そこでは魚やカニなどたくさんの生きものが暮らし、地球を旅する渡り鳥たちがエサを食べ、休んでいます。藤前干潟は魚、鳥など様々な生きものにとって重要な場所であり、大切に守られています。

たくさんの渡り鳥たちの休む場所である藤前干潟

渡り鳥は毎年長い旅をします。その途中、干潟などの湿地で休みながら移動していきます。

みなさんも休みなしでは疲れてしまうように、渡り鳥が生活するためには湿地がとても重要です。

藤前干潟は日本の中でも特にたくさんの渡り鳥たちが休む場所となっています。



シベリアから、オーストラリアまでの距離は1万km以上。鳥によってはおよそ地球1/4周もの距離を移動します。

藤前干潟にはいろいろな渡り鳥がいます。多くやってくるのはハマシギやダイシャクシギ、ダイゼンなどのシギ・チドリ類です。シギ・チドリ類の多くは、春と秋の2回見ることができます。

藤前干潟にやってくる渡り鳥

写真提供:名古屋市野鳥観察館

藤前干潟を代表する小型のシギ類です。数百羽の群れを作って飛び回る光景が有名です。(写真は夏羽)

長いくちばしが特徴的な大型のシギです。長距離を飛ぶことで知られています。

渡りの途中に立ち寄るチドリの仲間です。夏と冬では羽の色が違います。(写真は夏羽)

夏に渡ってきて繁殖し、冬は南方へ渡るカモメの仲間です。

冬に渡ってきた後、夏になると北方へ渡り繁殖する、白と黒の色分けが特徴的なカモです。二枚貝などのエサを食べます。(写真はオス)

冬に渡ってくる尾羽が長く伸びているカモです。オスとメスで色が違います。(写真はオス)

また、渡り鳥のほかにもカワウやアオサギ、ミサゴなど、1年を通して見られる鳥も多くいます。渡り鳥だけでなく、多くの鳥にとっても藤前干潟は大切な場所です。

藤前干潟周辺で1年を通じてみられる鳥

写真提供:名古屋市野鳥観察館

木の上に巣をつくり、海や川にやってきてエサをとります。集団で魚の群れを追い込んで食べる姿が有名です。

一年中見られる日本で一番大きなサギです。体は全体的に青灰色、くちばしは頭よりも長くなっています。

魚を食べるタカです。飛んでいる姿は白っぽく見えます。普段は流木などに止まっています。

多くの生きものたちを育む藤前干潟

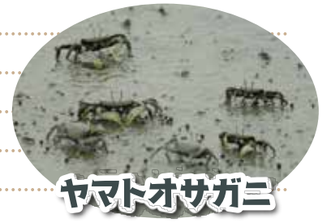
干潟にはいろいろな生きものの「食べる・食べられる」の関係(食物連鎖)があります。

藤前干潟に住んでいる生きもの①

水中や干潟の表面にいる植物プランクトンです。食べる・食べられるの関係の始まりになります。

泥の中の栄養分を食べると同時に、魚類や鳥類など、いろいろな生きもののエサになっています。

体長数ミリの小さな甲殻類です。干潟の表面にたくさんいて、主に小型の鳥のエサになっています。



干潟に住むカニです。大型のシギ類はこのカニが好物です。

海水と河川水の混ざった場所に住むシジミです。藤前干潟にいる二枚貝の代表です。

干潟の泥の中に2m以上の深い穴を掘って暮らし、水中の栄養分を食べています。

藤前干潟に住んでいる生きもの②

前足のような胸ビレと尾ビレで泥の上をはねて移動する魚です。泳ぎは苦手です。

海と川を移動する魚です。庄内川が伊勢湾に流れこむ藤前干潟では昔からよく捕れました。

川が海に流れこむ場所に多く見られる魚です。成長に応じて呼び名が変わる「出世魚」として知られています。

藤前干潟に流れ込んでくる川の水に含まれている栄養分を元に植物プランクトンが発生します。プランクトンなどをカイ、カニ、ゴカイ、アナジャコなどが食べ、さらにそれらを魚や鳥が食べます。

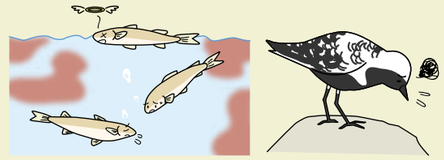
藤前干潟ではこのような「食べる・食べられる」の関係によって、多くの生きものが育まれています。

藤前干潟に鳥がたくさん来るのは、それだけエサになる生きものが多くいるからなのです。

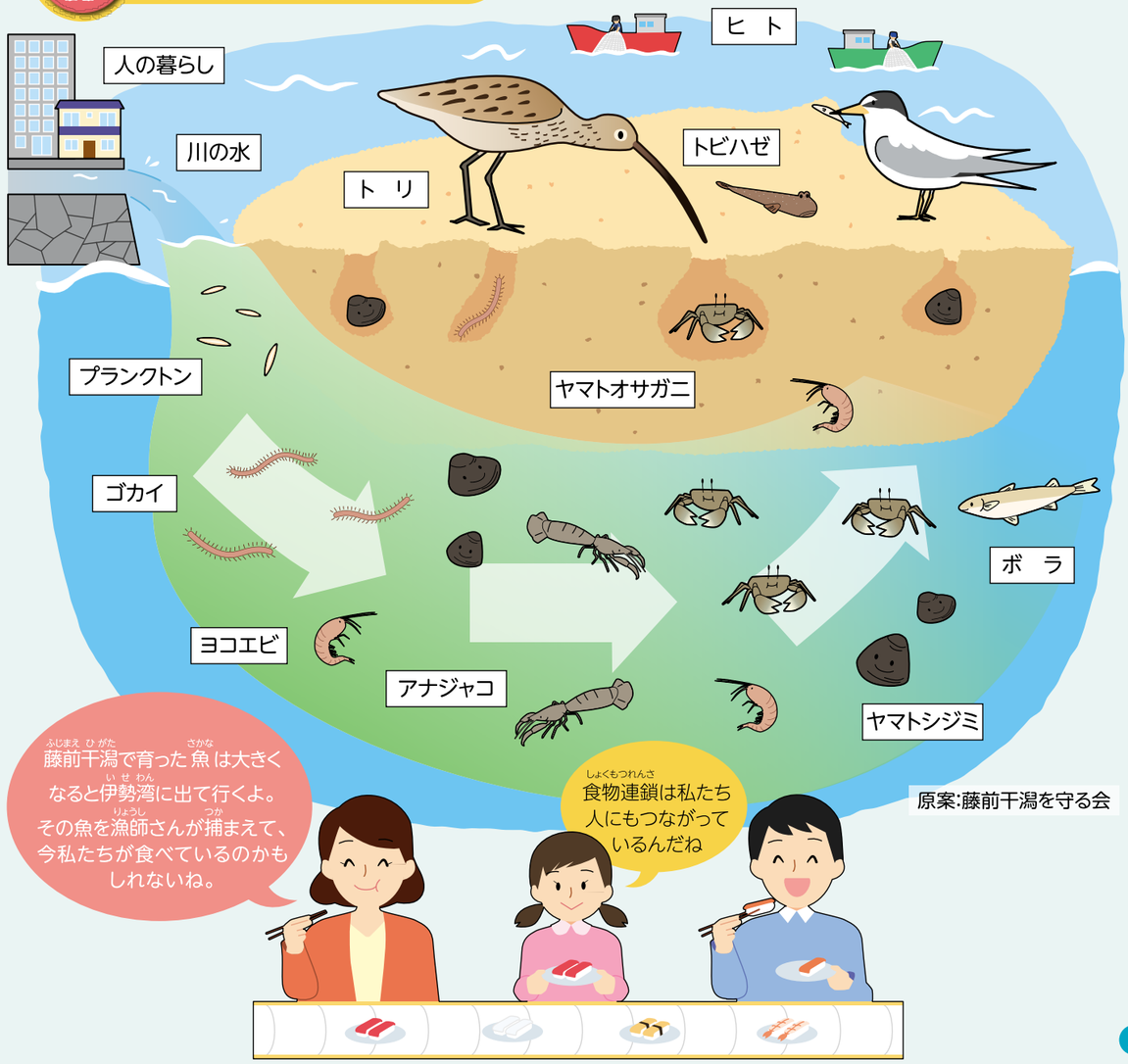
「食べる・食べられる」の関係が十分に働かず、川の水に含まれている栄養分によってプランクトンが異常に増えてしまうと(赤潮)、魚などに大きな被害が出ることがあります。

? 赤潮ってなあに?

赤潮とはプランクトンがたくさん増えて、水の色が赤などに見えるようになることです。赤潮が発生すると水中の酸素が少なくなるため、多くの生きものに被害がでます。



干潟の食物連鎖



原案:藤前干潟を守る会

生きものたくさん 藤前干潟へ出かけよう!

藤前干潟はたくさんの渡り鳥が休む、世界的にも重要な湿地として**ラムサール条約**に登録されています。
藤前干潟のまわりでは藤前干潟を知るため、守っていくために清掃活動や自然にふれあうイベントなど様々な活動が行われています。

清掃活動

藤前干潟周辺 ではボランティアによる清掃 活動が行われています。

干潟体験

実際に干潟へ入り、さまざまな生きものとふれあうことができます。

野鳥観察

藤前干潟にやってくる渡り鳥を観察することができます。

ラムサール条約ってなあに?

ラムサール条約とは、1971年にイランにあるラムサールという町で決められた「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」のことです。

世界の国々が力をあわせて、世界の重要な湿地を守り、湿地の自然をこわさないように利用するため、結ばれました。

日本は、1980年にラムサール条約に加わり、藤前干潟は2002年の第8回締約国会議(スペインで開催)で条約に登録されました。

名古屋市野鳥観察館

施設 内にはたくさんの望遠鏡 があり、四季折々の水鳥たちを観察することができます。

環境省藤前活動センター

干潟の生きものに直接ふれあう体感学習や、いのちのつながりとはたらきを学ぶことができます。

環境省稲永ビジターセンター

干潟 や渡り鳥など、藤前干潟 やラムサール条約について学ぶことができます。

藤前干潟に出かけるときには…(保護者の方へ)

- 干潟は生きものたちとふれあえる楽しいところですが、危険なところでもあります。干潟に入りたい場合は、事前に、右に掲載されている、藤前活動センターの連絡先までお問い合わせください。
- 干潟は生きものたちのすみかです。そっとおじゃまする気持ちで入ってください。
- 野鳥にエサをあげてはいけません。また、釣り糸やごみなどが出たら、必ず後片付けをしてください。
- 海面は約半日の周期でゆっくりと上下しています。干潟が出る時間(干潮 時間)を調べてから干潟に行くことをおすすめします。

藤前干潟周辺施設のご案内

■開館時間　9:00～16:30

■休 館 日　毎週月曜日(祝日の場合はその翌日)
第3水曜日(祝日の場合は第4水曜日)
年末年始(12月29日～1月3日)

■入 場 料　無料

団体利用については事前予約が必要です

名古屋市野鳥観察館　電話番号:052-381-0160

環境省稲永ビジターセンター　電話番号:052-389-5821

名古屋市港区野跡4−11−2(稲永公園内)

■交通…あおなみ線「野跡駅」／市バス「野跡駅」で下車、徒歩15分

環境省藤前活動センター　電話番号:052-309-7260

名古屋市港区藤前2−202

■交通…三重交通バス(サンビーチ日光川行き)「南陽町藤前」で下車、徒歩15分